

◆ 一般社団法人 東京建築アクセスポイントのみなさんが来館しました



まずは集会室で進修館の概要をご説明。家具など建具のデザインに感心していました。



小ホールの見学では、町議会の会期以外には一般に貸出されていると知りとても驚いていました。



東京建築アクセスポイントのみなさん。この日は笠原小学校や新しい村へも足を延ばしたそうです。

2024年12月21日、東京にある建築文化資源を通じ、社会と人を結びつける公益性のある活動を幅広く展開している、「一般社団法人 東京建築アクセスポイント」のみなさんが進修館の見学にいらっしゃいました。

東京建築アクセスポイントの設立メンバーは建築家、建築史家、建築ジャーナリスト、大学教授など、全員が建築の専門家です。2023年には日本建築学会教育賞（教育貢献）を受賞しています。建築を巡るツアーやイベントを通じて建築文化の振興に努めているとのこと、この度の進修館見学ツアーの参加者も、建築に携わっている方が多かったようでした。15名のみなさまには、まずは集会室で進修館の概要をお話した後、大ホール、小ホール、ロビー、和室など館内をゆっくりとご覧いただきました。館内を巡る中でも和やかにお話しさ

せていただきましたが、会話の中でたくさんご質問からは建築への造詣の深さを感じられました。奇しくも当日は冬至にあたり、小ホール前の光路（こうろ）を冬の陽光が美しく注ぐ様子をご覧いただくことができました。

進修館の見学ツアーを企画した同団体代表の和田菜穂さんは、かつてある催しで進修館の設計者である象設計集団の富田玲子さんにお会いした際に「宮代町にある進修館はぜひ見に行ってください」と勧められ、訪れるのを楽しみにしていたと話してくださいました。宮代町が巨峰の産地ということでブドウのモチーフが取り入れられていること、家具や屋外の植栽に至るまで宮代町の風景や生活が表現されていること、長く地元の人たちに愛され続けていることなどに感銘を受けていらっしゃいました。また、室名の

表示サインの文字が特徴的であることや、小ホールに置かれている町議会のイスのデザイン、各室の扉にツイイスコンというドイツ製の鍵が使われていることなど、細部にまで行き届いている設計者の心づかいを丁寧にご覧になっていました。

東京建築アクセスポイントでは現在、「建築の見方がよくわからない」「どこが凄いかかわからない」という皆さんに向けて、建築のプロがわかりやすくその魅力を解説する企画を開催しています。「【建築入門】昭和の巨匠建築家たち」と題して昭和の巨匠たちの名建築を取り上げる講座シリーズの中で、2025年3月6日には、進修館の設計者である象設計集団とゆかりの深い建築家吉阪隆正を取り上げるそうです。会員以外でも、一般枠で申し込みができるとのこと。



【建築入門】昭和の巨匠建築家たち 吉阪隆正  
2025年3月6日開催



「建築の見方がよくわからない」「どこが凄いかかわからない」という皆さんに向けて、建築のプロがわかりやすくその魅力を解説します。

一般社団法人 東京建築アクセスポイント

建築家、建築史家、建築ジャーナリスト、大学教授など、建築の専門家によって設立された団体。東京にある建築文化資源を通じ、社会と人を結びつける公益性のある活動を幅広く展開しています。建築に関わる人や情報が集積するプラットフォームを構築し、それらを繋げていく「アクセスポイント」となる活動を目指しています。



※ このページの画像は、一般社団法人 東京アクセスポイントよりご提供いただきました。

◆ 今帰仁ウェルネスプログラム

今帰仁村は、「やんばる」と呼ばれる沖縄本島北部に位置する、歴史と自然が融合した小さな村です。世界遺産今帰仁城跡や古宇利島が観光スポットとして注目を集める一方で、「素通り観光」が長年の課題となっており、今帰仁村観光協会では、昔ながらの風情と手つかずの自然が残る今帰仁村をより深く味わっていただくため、滞在型の観光のあり方を模索してきました。なかでも着目したのは、企業のメンタルヘルス対策やウェルビーイング経営といったキーワード。ストレス社会と言われる現代において、心と体、そして社会的にもすべてが健康な状態を意味する「ウェルビーイング」への注目が高まっています。これを受け、今帰仁村をフィールドに企業の人材育成や健康経営をサポートするウェルネスプログラムの開発に着手し、2年半かけて、

自然や文化・食といった資源を活用したプログラムを構築してきました。今帰仁ウェルネスプログラムは、「森のセラピー」「海のセラピー」「なきじん暮らし」の3つを柱として、歴史と文化が織りなす人と自然、食に触れる体験を通して、心身を整えるプログラムです。要望に合わせて事務局がプログラムを組み合わせる提案するカスタムコーディネート形式で、森・海のセラピーのほか、企業向けにチームビルディングや産業観光、アロマクラフトなど、さまざまなメニューがあります。とりわけ特徴的なのは、このプログラムを提供する専門人材の育成です。これまでも「今帰仁村のイチバンは人だ。」と、村に暮らす人々を大切にしている観光協会では、企業の健康経営やSDGs等の座学や自然体験の実践といった独自の認定過程



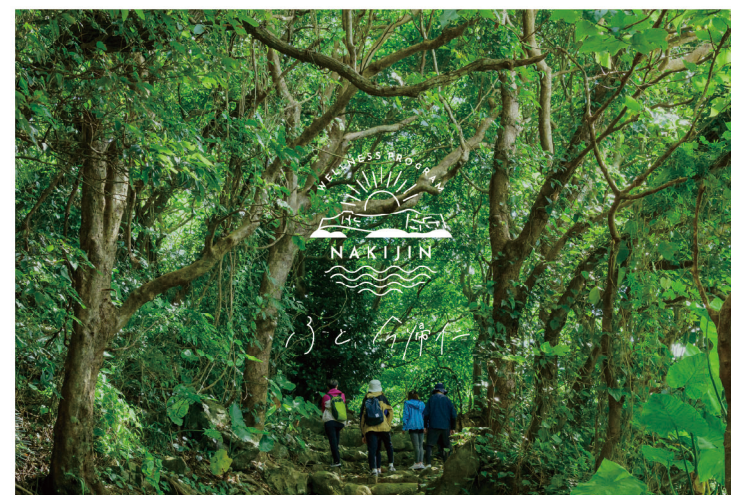
を構築し、村が認定する「今帰仁ちゅーなー」制度をスタートさせました。今帰仁ちゅーなーとは、今帰仁の自然と文化を愛する「なきじんちゅ（今帰仁の人）」であり、訪れる方々が自然の中で心身を整える＝チューニングを促す人を意味します。2022年から養成講座をスタートし、第1期生として25名が今帰仁ちゅーなーに認定されました。「訪れる人も提供する人も、関わる人がみな笑顔になれる」のが、今帰仁村の観光といえるでしょう。



本島屈指の透明度を誇る海と白い砂浜の天然の浜が数多く残る今帰仁村の海。



養成講座を経て村から認定された「今帰仁ちゅーなー」の方々。



個性豊かな森をめぐる「森のセラピー」プログラム。

今帰仁ウェルネスプログラム

歴史と文化が息づくやんばるの森と海、なきじん暮らし

深い歴史と文化を持ち、小さな村ながら歴史と自然の融合を楽しめるこの場所で。ふと立ち止まり、仲間や家族・自分自身と向き合うウェルネスプログラムをご案内します。

※ このページの画像は、今帰仁村HP、今帰仁村観光協会よりご提供いただきました。